

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 2 回相模原市農村環境計画策定検討委員会		
事務局 (担当課)	農政課津久井班 電話 0 4 2 - 7 8 0 - 1 4 1 6 (直通)		
開催日時	令和 7 年 3 月 2 1 日 (火) 1 0 時 ~ 1 1 時 3 0 分		
開催場所	けやき会館 2 階 職員研修室 (大研修室)		
出席者	委 員	4 人 (別紙のとおり)	
	その他	3 人 (コンサルタント)	
	事務局	4 人 (農政課長、外 3 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 農村環境計画 (案) の確認について</p> <p>(2) その他</p>		

議 事 の 要 旨

1 開会

塚田委員長及び農政課長より挨拶を行った。

2 議題

(1) 農村環境計画（案）の確認について

資料に沿って、農村環境計画（案）の確認について、コンサルタントより説明を行った。

（塚田委員長）キマダラルリツバメなどのトピックスについて、コラム形式でまとめられており、わかりやすくなった。

（農政課古川主査）第4章のタイトルについて、本市の環境全般に係る保全方針ではなく農村環境に係る保全方針であるため、「農村環境保全の基本方針」としてはどうか。

（コンサルタント）環境は広域的・多面的つながりをもっているため、「環境保全」としているが、本計画の対象地域である「農業振興地域及びこれに関連する地域」を明確にするという意図であれば、農村環境としても問題ないと考える。

（塚田委員長）広域的整備区分にて、都市部の考え方も整理されているが、問題はないか。

（農政課金子課長）本計画の対象地域は主に農業振興地域であり、広域的整備区分における「都市部」についても、都市部に区分したエリアの中にある農業振興地域つまり農村を対象としているため、章項目タイトルを農村環境としても問題ないと考える。

（塚田委員長）承知した。「第2章 地域の環境評価」にて環境全般について整理し、これを第4章にて農村環境とすることにより、対象地域をより明確化し、「第5章 農業農村整備事業における整備方針」の各論へつなげるという流れであれば、第4章の章項目タイトルを「環境」から「農村環境」に限定して問題ないと考えられる。

（農政課野崎総括副主幹）本計画の中で示す、農村地域の将来像（キャッチコピー）に対する考え方を教えて欲しい。

（コンサルタント）上位関連計画における目標や当委員会の中で提案のあった、農家や行政関係者のみならず、広く一般の市民も含めて農村環境に目を向けて欲しいという意見や一人ひとりの営農が環境を守っているという意見も踏まえ、「一

人ひとりが主役の」という言葉を導入に使っている。また、相模原市の関連計画のなかで「みどり」という単語がよく使われているので、この言葉も入れている。さらには、この計画が、未来に向けて持続可能な農業・農村を目指すものということ「未来を耕し」という目を引く言葉で表現したうえで、農と自然が共生関係にあるという意味も込めている。

(農政課古川主査) このキャッチフレーズ(将来像)について、本委員会において議論すべき重要事項であると考えているが、「みどりあふれるまちづくり」について「農村づくり」や「地域づくり」としなくて良いかなど、委員各位からの意見をいただきたい。

(石井委員) 「まちづくり」という言葉は現在では広く浸透しており、農業に関わっていない人にとっても親しみのある言葉であるため、このままで良いと考える。

(農政課金子課長) 意見のとおり、この将来像における「まちづくり」の「まち」は、「都市」ではなく「地域」という意味である。

(塚田委員長) 上位計画での目標や本委員会での意見を十分に練りこんであると感じられるので、よいキャッチコピーではないかと思う。

(石井委員) 金原地区土地改良事業も含め、このキャッチコピーはいろいろな場面で活用できるようにしてほしい。

(農政課金子課長) 可能な限りこのフレーズを使っていくように努める。

(石井委員) これから農村環境を保全していくにあたり、人の手を入れていくことはやはり重要。今は農業体験なども注目されていて、域外の人をどのように取り込んでいくかが重要になっている。例えば長竹地区で荒廃した水田に、域外からの担い手が参入してきた事例がある。水田は水利の関係が複雑で難しい面もあるが、このように人の手が入れば環境にも好影響となる。

(石井委員) 山林の荒廃も農村環境にとっては大きな要素となっているので、少し盛り込むことはできないか。

(塚田委員長) 自然環境の項目で少し触れられてはいるが、確かに山とのつながりというのはあまり言及されていない。生産環境の中で林業のことには触れられていないので、ここに入れるのもひとつの考え方ではないか。

(農政課野崎総括副主幹) 山林に関しては、森林政策課で保安林の管理を県と連携して行っているところであり、民有林についても助成制度などがあると伺っている。

(農政課金子課長) 山林と農地の境目は明確に分けられるものでもないので、今のご意見を踏まえ、計画の中で反映させることができるか検討してみる。

(石井委員) 山林の問題については、雑木林に手が入っていないことが課題であ

る。材木にできる杉や檜は整備されているが、雑木林には手が入っていない。

(塩脇委員) ここでいう山林は農村に含めてよいのか。

(農政課金子課長) 農地に隣接している雑木林と捉えると、一概に農村とは異なるとも言いきれない。当計画で保安林にまで言及するのは難しいと思うが、森林政策の計画やビジョンに抵触しないような形で雑木林の問題について盛り込むことができないか検討してみる。

(石井委員) 雑木林の問題もあるということに少しでも触れていただくことが重要である。

(農政課野崎総括副主幹) 農村環境計画の中では環境創造区域と環境配慮区域に区分することとなっており、図面の中で地区名も表記されているが、計画の対象となるのはいわゆる青地に絞られると解釈してよいのか。

(コンサルタント) 図面の中でのエリアは広く設定しているが、基本的には農振農用地(青地)が対象となる。この計画については、農地に関する事業を進める際に活用されるべきものであり、事業を進めるにあたっては、その地域が環境創造区域に区分されるのか、環境配慮区域になるのかを確認したうえで、適切な環境配慮をしていくための参考にするものとなる。

(2) その他

事務局より、策定までの今後のスケジュールについて改めて説明した。

以 上

相模原市農村環境計画策定検討委員会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	塚田 英晴	麻布大学獣医学部動物応用科学科 野生動物学研究室	委員長	出席
2	篠崎 雅人	相模原市農業協同組合		出席
3	角田 恵子	神奈川つくい農業協同組合		欠席
4	石井 好一	金原地区土地改良事業推進委員会		出席
5	塩脇 和弘	神奈川県相模川左岸土地改良区		出席
6	柳下 勉	神奈川県県央地域県政総合センター 農地課		欠席